

□ 特集！

平成30年度 秋田県自作
視聴覚教材交流発表会

□ 秋田県教育研究発表会

□ H30調査研究事業から
アンケート調査の概要

秋田県生涯学習センター(編集:社会教育アドバイザー)

特集！

平成30年度(第68回) 秋田県自作視聴覚教材交流発表会

平成31年2月21日 会場 秋田県生涯学習センター

本交流発表会は、学習の場で役立つ視聴覚教材の自作活動を促進するため毎年開催されています。68回目となる今回は、幅広い年齢層から4部門11作品(小学校7、中学校1、高等学校1、社会教育2)のエントリーがあり、制作者や見学者、社会教育関係者など52人が参加しました。審査結果は、次の通りです。なお、出品作品は、当センターにて視聴、貸し出しができますのでご活用ください。

最優秀賞



「カワセミの子育てーひとり立ちまでの試練ー」

大仙市立神岡小学校支援地域本部 鈴木三郎さん

(平成31年度全国自作視聴覚教材コンクールへ推薦)

優秀賞



「じじ、ばばとすごした10日間 ～ひさい地 呉で～」

横手市立朝倉小学校4年生 高木 蓮さん



「ねずみのすもう」

メディアバンクみるわーく 中川文子さん

優良賞



「食塩の結晶の成長過程」

秋田大学4年生 鈴木 創さん



「お酢のチカラ」

横手市立朝倉小学校4年生 佐藤 零さん



「伝統の横手のお祭り伝え隊」

横手市立朝倉小学校4年生 ASA ASAひまわり

(朝倉小4年ひまわり学年)松井結愛、佐藤優羽、高橋瑠輝奈、小田嶋愛羽、佐々木優徠、地主梨乃、岡田果桜さん



「紙しばい『うぶめの妖怪』」

横手市立朝倉小学校4年生 竹村美羽、高木琉花さん



「物質が水に溶ける様子の映像教材」

秋田大学2年生 佐々木健真さん



「高等学校化学基礎における金属樹の生成の観察」

秋田大学3年生 佐藤陽香さん



「ジオサイト案内書1 院内・院内銀山」

メディアバンクみるわーく 畠山 仁さん



「中ノ又の鹿島様」

メディアバンクみるわーく 小野まさるさん

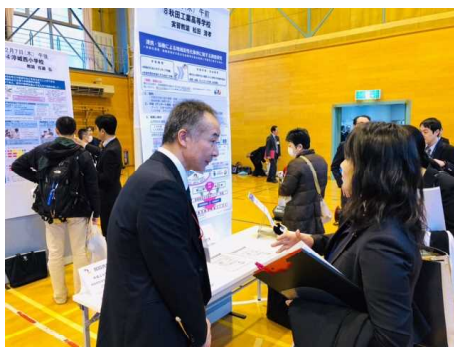
第33回 秋田県教育研究発表会

秋田県総合教育センター 2月7、8日

発表会には、県内外から約630名の教育関係者が参加しました。県内の教職員による研究発表は68件に上り、内23件が「学校と地域の連携・協働」に関わる発表でした。

秋田市立下北手中学校石塚昭仁教頭からは、「学校・家庭・地域の三者連携のための目標設定の方策」の発表がありました。保護者、地域住民の実態調査から、教師との意識のズレを的確に把握して課題の明確化に迫る実践事例は、示唆に富むものでした。

当センター松田清孝研修員からは、今年度の調査研究からヒントを得た地域課題解決の取組に関する発表があり、学校と地域が目的を共有することによる「持続可能な地域づくり」を提言しました。



【当センター松田研修員のポスター発表】

平成30年度秋田県生涯学習センター調査研究事業
「連携・協働による地域活性化事例に関する調査研究」

ミニセミナー

企業や民間団体等と社会教育行政との連携・協働の事例研究

当センターでは、平成30年度の調査研究にあたって県内の市町村教育委員会を対象に、企業や民間団体等との「連携・協働による地域活性化事例」についてアンケート調査をしました。ここでは、集計結果の概要について、その一部を紹介します。なお、アンケートの詳細を含め、調査研究事業の全容をまとめた「調査研究報告書」は、3月中旬に当センターホームページに掲載予定ですのでご覧ください。

0 他の機関や団体と連携・協働している市町村が増加

- ・連携・協働している市町村数 20 (2016年調査比+5)
- ・連携・協働先 (2016年調査比+16%以上のパートナー)
社会教育団体、小中学校、NPO等民間団体

0 企業等との連携・協働の意向を持つ市町村が多い

- ・社会教育計画や施策の重点等に位置付けあり 52%
- ・要請があれば応えたい 52% (複数回答可)
- ▽ 要請があっても応えられない 12% ▽ 必要ない 4%

0 市町村と企業等との連携・協働で期待する効果

- ・ベスト3 知識やノウハウを地域に還元 68% (複数回答可)
- 従業員等が地域人材として活動 68%
- 従業員等が地域活性化などに参画 64%

0 市町村が企業等と取り組む必要ありと考えるテーマ

- ・家庭教育 80% (注目! 地域で支える意識へ変化)
- ・学校以外での教育支援 80% ・文化 80%
- ▽ 消費者教育、高校での教育支援、観光 44%

0 連携・協働の課題は「情報不足」「人員不足」

- ・課題や困難を記述した市町村数 12
内、目的共有できる企業等を知らない 6市町村
人員不足 6市町村

0 連携・協働へのカギは「相互理解」

- ・事業実施の企業等や行政の担当者から聞き取り
「ネットワークづくりが大切」、「共通のメリットを見出す」、「互いの長所を生かし短所を補う」など

七色

1月22日、大相撲元関脇の豪風が現役を引退しました。23日には押尾川親方となった元豪風の記者会見が行われ、その模様は翌日の新聞各紙で報じられました◆「高い志や目標を持って努力してきた。その目標が鮮明であるほど努力できる。理想の相撲を思い描いて日々稽古してきたが、豪風らしい相撲が取れなくなった。引き際と思った」と、自分なりの潔さで締め括った豪風の相撲道。千思万考、迷い、悩み、不安に耐えた百錬自得の16年半の力士人生。お疲れ様でした◆「百聞は一見に如かず、百見は一考に如かず、百考は一行に如かず、百行は一果に如かず、百果は一幸に如かず…。元豪風が語る「充実した素晴らしい時間を過ごさせてもらった」の一言、まさに百の結果から導かれた尊い「一幸」の境地と言えそうです◆「古の道を知りても唱えても我が行いにせずば甲斐なし(島津日新公いろは歌)。謙虚に愚直にしなやかに「楽しむことを学び、学ぶことを楽しむ」、こんな生き方を自分らしい「かたち」にするのはいかがでしょうか。